人キラリ★話題の「ひと」

新井 啓泰（のりやす）さん
（赤見町）

〇プロフィール
5歳からピアノを習い、東京藝術大学卒業後に渡欧。留学中、文化庁新進芸術家海外研修制度特派員を務める。現在、宇都宮短期大学にて教授。フェリス女学院大学講師を歴任。

地域住民に音楽を

市内の歯科医院「スマイルスマイル歯科」において、市内出身ピアニスト新井啓泰さんの院内コンサートが開催されました。新井さんは、ドイツ国立ハンブルク音楽大学、イタリア・ペスカーラ音楽院にて研鑽。学生音楽コンクール第二位、栃木県ピアノコンクール大賞等々、数々のコンクール入賞を果たし、ソロ、室内楽、歌曲伴奏、オーケストラとの共演など、幅広く活躍しています。

新井さんの奏でるピアノは、色彩感覚豊かで、艶と透明感を兼ね備えた音色は他を寄せ付けず、その楽曲解釈においても唯一無二の世界観を確立し、数多くの聴衆を魅了し続けています。

今回のコンサートは、昨年に引き続き2回目の開催。このコンサートは主催者が地域の人に、普段触れる機会が少ない新井さんの素晴らしいピアノの音色を聴いて、「少しでもたくさんの人に音楽に触れてほしい」との思いと、「歯科医院も良質な音楽も、人生を豊かにするものだと感じてほしい」と願って開催しているとのことです。

ベートーヴェン、ドビュッシー、ショパンと、誰もが一度は耳にしたことがある名高い作曲家たちの10曲を軽やかに、優雅に次々と演奏。来場者の人たちにとっては、あっという間の90分間でした。

これからも、市内の皆さんとのピアノを通しての繋がりを大切に、新井さんのますますのご活躍を願っています。

（市民記者　葛貫郁子）

院内コンサートで新井さんの演奏に聴き入る来場者の皆さん

市長からのメッセージ

天皇陛下の御即位に伴い、元号が「平成」から新たに「令和」となりました。新しい時代を皆さんと一緒に、襟を正し、市政発展に向け歩んでいきたいと思います。

さて、新元号の「令和」ですが、日本最古の歌集「万葉集」から出典され、奈良時代に福岡県の太宰府で催された「梅花の宴」で詠（よ）まれた序文からの引用とされています。

万葉集と言えば、東歌の中に下野の佐野付近を詠んだ歌が2首あるのをご存知ですか。三毳（こなら）山を詠んだ歌として

「下野の　三毳の山の　小栃のす
　まぐはし子ろは　誰（た）が笥（け）か持たむ」

そして、秋山川を詠んだ歌として

「下野の　安蘇の河原よ　石踏まず
　空ゆと来（き）ぬよ　汝（な）が心告（の）れ」です。

他にも、佐野を詠んだのではといわれる歌も数首あるとのこと、これを機に、万葉集に興味を持ってみてはいかがでしょうか。

また、佐野の民話に、力持ちで大男の唐沢山城主　家綱の話があります。学問の神様、菅原道真と同様に無実の罪で九州に流された家綱が、同じ境遇の道真公を祀った太宰府天満宮に毎日お参りをした結果、国の威信をかけた天覧相撲に勝利し、大手柄と無実を手に入れ佐野に帰ることができたという話で、家綱が太宰府天満宮から分社した神社が今の朝日森天満宮です。このように太宰府と本市とのつながりも見られるなど、新元号「令和」と本市の関わりを調べることも面白いですね。

そして「令和」の「令」は「令嬢」や「令夫人」というように、良い、美しいとの意味もあり、女性のイメージもあります。そのような「令和」元年に開催される「日本女性会議２０１９さの」を是非成功させたいと思っております。「令和」という新しい時代が、平和で安全な良い時代となりますこと、皆さんと一緒にお祈りいたします。

岡部正英

※市のフェイスブックでも、市内のイベントなどの様子をお知らせしています。ぜひ、ご覧ください！

活力あるまちづくりのために

３月２２日、西浦・黒袴土地区画整理事業竣工記念式典が、同区画地内の公園にて開催されました。

同事業は、平成２５年に佐野新都市開発整備事業の一環「佐野インター産業団地二期工事」としてスタートし、施工面積約 8.6ha。区画整理で生み出された産業団地は、南に東北自動車道佐野・藤岡 IC、北に佐野 SA スマート IC を擁する交通利便性や、災害の少ない安全安心な地域性などが評価され、既に完売となりました。

同産業団地は本市の掲げる『魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり』に大いに貢献するものと期待されています。

街をハレの舞台に！

３月２８日、佐野駅南商店街協同組合と佐野クリケットチャレンジのコラボ企画で、にぎわいのまちづくりについての講座が佐野商工会議所で開催されました。講師のワークヴィジョンズ代表・西村浩さんは「まずあなたの周り徒歩５分の場所を楽しくしましょう。小さくていいんです、自分で動きましょう」と、西村さんの出身地である佐賀での取組み事例を紹介。 一人の街をこよなく愛する人がいれば、そういう人が集まれば街は変わるということを実践されています。

“佐野のまちを元気にしたい”という熱い思いを持った人たちで、会場は何か起こりそうなわくわく感に満ちていました。

（市民記者　永倉文子）

佐野弁 ばんでい

つまらないこと、余計なことをタコトという

意味のわからないつまらない話を、共通語では寝言（ねごと）といいます。寝言と同じ意味の方言にタコトがあります。タコトには、いい加減だとかでたらめという意味もあります。しかし、最近は中高年者でも、このタコトを使う人はめっきり少なくなっています。

「タコトいうンじゃネーよ。そんなコター（ことは）、だれが聞いたって信じネよ。エーカゲン（でたらめ）だってコター（ことは）、自分だってわかりそうなもんだけどねえ」

常識では考えられないようなことば、はなはだしくばかげたことばを、共通語で戯言（たわごと）といいます。方言でいうタコトは、この戯言が訛（なま）り、意味変化したものです。

意味・用法などがタコトとよく似ている方言に、ヘデナシがあります。これは、普通ろくでなしという意味で使われますが、でたらめ（な人）・うそ（をいう人）という意味もあります。ヘデナシはヘデーナシともいい、下品で俗っぽいことばといわれています。昭和の中頃までに男性ことばとして使われていました。

「あの男は、エー加減なことベー（ばかり）べらべらクッチャベッテ（しゃべって）るンで、デホーラク（口まかせ）もんといわれているよ。ヘデナシともね」

ヘデナシは、〝屁出なし〟がもとのことば。屁さえも出さないようなけちんぼうで、つまらない男という意。ヘデモネーもことばの成り立ちは同じだと言われています。

（市民記者　森下喜一）

今回の表紙　「平成から令和へ」

５月より元号が「令和」となりました。令和の出典元となった万葉集では、巻１４ - ３４２４において、市内で親しまれている「三毳山」が詠われております。